

## 学校の取組をセルフチェックしてみましょう

まず、自校の取組を振り返り、課題を整理しましょう。

取組内容	YES	NO
(1) ICカードなどの客観的な方法で勤務時間を記録し、把握していますか？		
(2) 定時退勤日を設定し、定時に退勤できるよう声をかけ合っていますか？		
(3) 困っていること、悩んでいることや仕事の進捗状況などを気軽に相談し合える組織づくりができていますか？		
(4) 日課、学校行事、会議、校務分掌などの見直しを日常的にしていますか？		
(5) 学校の業務を教員以外のスタッフや家庭・地域と協力・分担できないか検討を進めていますか？		
(6) 部活動について、休養日の設定と遵守ができていますか？		

個人で解決できないことは、安全衛生委員会などを主体として、組織で解決しましょう。

## D中学校の取組に学び、主体的に働き方改革を進めましょう

D中学校では、働き方改革のテーマを「学校づくりの根幹は『授業づくり』の実現に向けた環境づくり」と設定しました。それを受け、学校安全衛生委員会では、教職員の健康の保持増進のため、時間外勤務縮減に向けて具体的な取組について検討し、進めようとしています。

- ① 月2回の完全定時退勤日の設定
- ② タイムカードの導入
- ③ 各自が週1回「ノー残業デイ」を設定
- ④ 「16:45」を過ぎる出張の場合は、原則「直帰」
- ⑤ 通常授業日における「職員の完全退校時刻」を設定
- ⑥ 留守番電話の設定
- ⑦ 校内ネットワークの利用時間の制限 など

授業づくりを大事にした取組が進んでいます。学校だけではできないこともありますので、保護者や地域の皆様の理解を得ながら進めましょう。



## 保護者や県民の皆様の理解・協力を得ながら取組を進めましょう



H29.11.20「共同メッセージ」を発表

県教育委員会、市町村教育委員会連絡協議会、県PTA連合会は、三者で連携して、保護者や県民の皆様の理解を得ながら働き方改革を進めるために、共同メッセージを発表しました。

保護者や地域の皆様のご意見を伺う場をつくり、共に考えながら取組を進めましょう。私たちが日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで人間性を高め、子どもたちに主体性、創造性を育む学びを実現していきましょう。



参考資料：公立小中学校における働き方改革のための共同メッセージ  
(URL: <http://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kyoiku/kyoshokuin/documents/hatarakikata-message.pdf>)

子どもたちのために、  
授業づくりに打ち込める環境を目指して



# 学校における働き方改革



部活動で、大会前には、土日ずっと練習で、休みがとれません。自主研修の時間がほしいなあ。

忙しくて、教材研究の時間が十分にとれません。どうしたらよいでしょうか。



## 忙しすぎる現状を足元から改善しましょう

急速に変化する社会に対応するために、子どもたちに主体性、創造性を育む学びを実現することが重要になっています。授業づくりに打ち込むことができる環境にするために、長時間勤務をよとする、これまでの働き方を見直しましょう。



忙しすぎる現状を放っておくと、子どもたちのためにならないですね。でも、何から始めればよいのでしょうか。

## 働き方改革の第一歩は、年間を通しての勤務時間の把握から

なぜ、勤務時間を把握しなくてはならないのでしょうか。仕事の進め方と危機管理の面から考えてみましょう。



ICカード等により客観的に勤務時間を把握し、集計するシステムを導入する学校が増えています。

「今日は早く帰れた」「今日は遅かった」と勤務時間を意識するようになり、仕事に優先順位をつけたり、時間の見積もりをしたりできるようになったという声があります。

また、勤務時間管理は労働法制上の責務であり、公務災害認定の根拠となります。



職員室出入口に管理PCを設置し、名札と一体のICカードを出退勤時にかざす。

2017年10月度 勤務時間集計表
2017年10月度 (00) 勤務時間集計表
2017年10月度 (00) 勤務時間集計表



「見える化」により意識が変わってきました。Must (しなければならない仕事) と Better (することが望ましい仕事) に分けて、優先順位をつけて、仕事を進めるようになり、効率がよくなりました。

- 全職員の1ヵ月の勤務時間集計表と個別の勤務時間集計表
- 個別の集計表は各職員へ配付



## ～学校の取組事例～

### A小学校「信州型コミュニティスクール」の仕組みの活用

A小学校では、食事時間などを確保するために、地域の方々が給食準備等の支援をしています。分業化、協業化の取組が進んでいます。

手作りの運搬台で教室の入口まで運びます。配膳は子どもたちが行います。



教室で子どもと一緒に給食を食べます。子どもとの会話も弾みます。

他校でも、登下校・教室の見守り活動、放課後学習支援、清掃支援などの取組が行われています。



### B中学校「職員のアイデア」を活かした取組

B中学校では、時間外勤務縮減のためのワークショップを全職員参加で行い、具体案を出し合いました。職員のアイデアを活かした取組で、成果をあげています。

【実施内容の例】

- ① 定期テストを2日に分け、午前日課として、午後に採点の時間を確保
- ② タイムレコーダーの導入
- ③ 学校当番の業務内容の見直し
- ④ 一人一係にして、係会をなくす
- ⑤ 「勤務時間の割振り」で、割振り先を午前中に設定し、授業交換で対応
- ⑥ 研究授業は1枚指導案で実施 など



働き方改革で、質の高い授業づくりを

### 県教育委員会



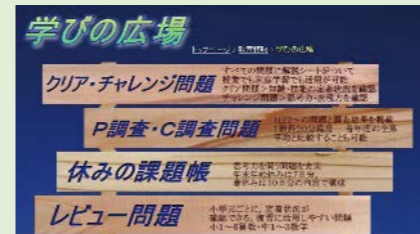
主幹指導主事

主幹指導主事が、各学校の実態を把握し、学校運営を支援



指導主事

指導主事が、各学校の日々の授業づくりを支援



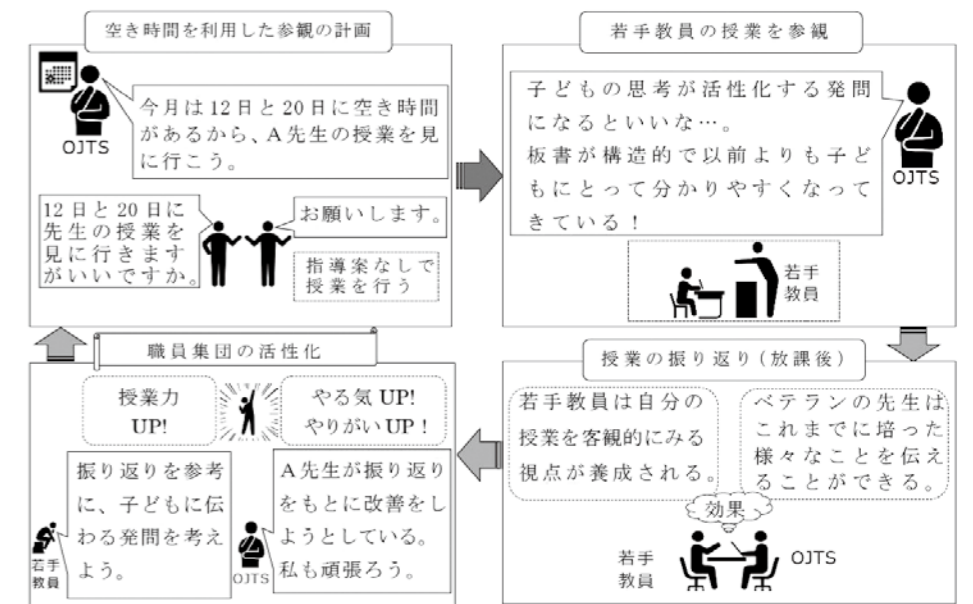
総合教育センターHP「学びの広場」

優れた実践、教材などを各校から収集  
単元計画やワークシート、教材等を共有

- ◇ 会議の精選と効率化、各種調査の精選と簡素化の推進
- ◇ 県共通仕様の統合型校務支援システムの導入について検討

### C小学校「効率のよい校内研修」の推進

C小学校では、職場で実務を通して行う校内研修（OJT）の推進役をOJT Supervisor（以下OJTS）として位置付け、ベテランの先生が若手教員の支援をしています。若手教員の授業力向上、教員間のネットワークの活性化、風通しのよい職場づくりにつながっています。



### 部活動指導の負担軽減

#### 部活動指導員の配置

市町村の非常勤職員として任用され、従来の外部指導者とは身分が異なります。校長の監督のもと、部活動顧問として、指導に当たります。

学校職員として、部活動の顧問を担当します。実技指導の他、大会・練習試合等の引率、保護者等への連絡、事故発生時の現場対応などを職務として行います。



#### 全ての学校で「スポーツ活動指針」の活動基準に沿った運用の徹底を

全ての学校で、活動基準を遵守することで、効果が上がります。

- ◇ 平日に1日、土日に1日の休養日設定
- ◇ 朝の部活動は行わない
- ◇ 平日の総活動時間は2時間程度
- ◇ 休日の練習は、午前、午後にはわたらない

〔部活動指導員の活用例〕



## ～県教育委員会の取組～

### 「学校における働き方改革推進のための基本方針」の概要

目標は、すべての学校、すべての教室で、質の高い授業を実現するために、分業化、協業化、効率化を進め、長時間勤務という働き方を改善することです。「業務の削減や分業化、協業化」「業務の効率化、合理化」「勤務時間を意識した働き方」などの5つの視点から、20項目の具体的な取組を示しています。

<http://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kyoiku/kyoshokuin/documents/29kyoikn-hatarakikata.pdf>

### スクール・サポート・スタッフがお手伝い

書類、テスト等の印刷や配付はもちろん、教材・教具の準備と片付け、単元テスト等の採点や成績入力、書類整理や学年会計業務の補助などのお手伝いをします。



- ◇ 授業以外の業務を補助的に行う非常勤職員を配置
- ◇ 教員免許は不要で、児童生徒の指導に直接かわらない業務を担当